



あいまいさに耐える力

いくつかのSF小説の舞台にもなっている2025年を迎えました。21世紀になってから4分の1が過ぎようとしているにも関わらず世界も日本も先のことはなかなか見通すことができません。それでも目の前のことを一つずつ進めてゆくことが大切なのでしょう。

さて最近の選挙における投票行動についての記事がありました。SNS上で“あの人はうわべは良い人そうだけど裏ではこんな悪いことをしている”とか、逆に“あの人は、悪者扱いされて叩かれているけど実はこんな良いことをしてきた”というような根拠がはっきりしないけれど感情や情動に訴えかける情報が広まると、それに左右された投票が少なからずあったのではないかと分析しています。さて最近の選挙における投票行動についての記事がありました。SNS上で“あの人はうわべは良い人そうだけど裏ではこんな悪いことをしている”とか、逆に“あの人は、悪者扱いされて叩かれているけど実はこんな良いことをしてきた”というような根拠がはっきりしないけれど感情や情動に訴えかける情報が広まると、それに左右された投票が少なからずあったのではないかと分析しています。

ものごとをあいまいなまま受け取ることは不安です。合っていそうなことに飛びつきたくなったり、白黒はっきりさせたくなくなったりするでしょう。また自分があいまいな状態にいることに我慢できない時にはとにかく答えを急ぎたくなり、当てずっぽうで答えることもあるでしょう。その結果答えを間違えると、自分にはどうせできない問題だと思って手をつけなくなるかもしれません。しかしあいまいなうちは多角的にいろいろな方向から考えられるチャンスです。面積が同じ三角形をすべて見つけなさいという中2の「等積変形」の問題は小学校でも一度学習しています。いったん「この三角形がそうだ!」とわかってしまうと他の三角形にどうしても目が向かなくなってしまう。「もう少しで全部見つけられたのに」と悔しがる姿が、あいまいさに耐える力につながっていくのだと思います。あいまいでいることは抽象的な考え方に慣れていくことでもあります。小学校低学年のテストではとにかく出てきた数字を操作すれば答えにはたどりつけました。ところが学年が上がるにつれてどの教科でもそう単純にはいかなくなります。考え方のギアを一段入れ替えなければなりません。その時に必要なのがあいまいさに耐えてじっくり考えること、それを新年の目標の一つにしてみませんか。